

厚生労働科学研究費補助金（地域医療基盤開発推進研究事業）  
令和元年度 分担研究報告書

平成 26 年 12 月 19 日発出の通知「医療機関における院内感染対策について」の更新

村上 啓雄（岐阜大学医学部附属病院生体支援センター・センター長・教授）  
研究協力者：掛屋 弘（大阪市立大学）  
徳田 浩一（東北大学）  
寺坂 陽子（長崎大学病院）  
森 美菜子（広島大学病院）  
相曾 啓史（東京医科歯科大学）  
山本 景一（熊本大学病院）

#### 研究要旨

第 12 回院内感染対策中央会議(平成 27 年 2 月 2 日開催)における論点、及び国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議による「薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン 2016-2020」の主要な対策を参考に、平成 26 年 12 月 19 日発出の各都道府県・各政令市・各特別区衛生主管部(局)長あて厚生労働省医政局地域医療計画課長通知「医療機関における院内感染対策について」(医政地発 1219 第 1 号)の更新のための、たたき台作成作業を行った。国公立大学附属病院感染対策協議会(国公協)会員の 4 職種の職種別に研究協力者を選任し、現在までに蓄積した新たな知見を加えてたたき台を作成した。具体的には、抗微生物薬適正使用プログラム：Antimicrobial Stewardship Program (ASP) およびそれを実践する抗菌薬適正使用チーム：antimicrobial Stewardship Team (AST) について新規に加えるとともに、重要なポイントとして環境整備・環境管理、地域連携、アウトブレイクの考え方などの部分を中心として見直し・修正作業を行った。次年度は、広くコメントを収集しさらにブラッシュアップする予定である。

#### A. 研究目的

院内感染対策に関する最新の知見および国内外で発生した院内感染事例を収集・参考にして、平成 26 年 12 月 19 日発出の各都道府県・各政令市・各特別区衛生主管部(局)長あて厚生労働省医政局地域医療計画課長通知「医療機関における院内感染対策について」(医政地発 1219 第 1 号)の内容を見直し、更新案を策定することを目的とする。

#### B. 研究方法

本研究班の研究体制は、研究分担者 村上啓雄(岐阜大学)を責任者として、国公立大学附属病院感染対策協議会(国公協)会員メンバーから職種毎に、医師：掛屋弘(大阪市立大学)、徳田浩一(東北大学)、看護師：森美菜子(広島大学)、寺坂陽子(長崎大学)、薬剤師：相曾啓史(東京医科歯科大学)、臨床検査技師：山本景一(熊本大学)を選任して作業を行なった。

見直し作業は、平成 26 年 12 月 19 日発出の各都道府県・各政令市・各特別区衛生主管部(局)長あて厚生労働省医政局地域医療計画課長通知「医療機関における院内感染対策について」(医政地発 1219 第 1 号)を基礎にして、以後現在までに蓄積した新たな知見を加えることを中心とした。具体的には抗微生物薬適正使用プログラム：Antimicrobial Stewardship Program (ASP) およびそれを実践する抗菌薬適正使用チーム：antimicrobial Stewardship Team (AST) 活動の実践について新規に加えるとともに、より重要なポイントとして環境整備・環境管理、地域連携、アウトブレイクの考え方などの部分を中心として見直し・修正作業を行った。作業に際しては全国保健所長会薬剤耐性(AMR)対策等推進事業報告書、Antimicrobial Stewardship Program 実践のためのガイダンス、中小病院における薬剤耐性菌アウトブレイク対応ガイダンスなど、既存の他の成果物との整合性に配慮

した。  
通知内容各項目と、それぞれの役割分担および新規項目・重点項目を表に示す。

#### (倫理面への配慮)

本研究は既存の通知内容を見直し、また既存の他の成果物を参考に作業を進めるものであり、ヒトを対象とした研究に当たらず、倫理面での問題はない。

### C. 研究結果と考察

見直しおよび更新案策定作業は、第12回院内感染対策中央会議(平成27年2月2日開催)における論点：地域連携、感染制御における感染管理認定看護師(Certified Nurse Infection Control: CNIC(いわゆるICN))の役割、医療機関に求められるアウトブレイク対応(インパウンド感染症対策も含めて)、抗菌薬適正使用、サーベイランス強化、の各項目および、平成28年4月5日に発表された、国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議による「薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン2016-2020」において、主要な対策に挙げられた6分野のうち、動向調査・監視、感染予防・管理、および抗微生物剤の適正使用の各項目を参考に進めた。院内感染対策の体制については、感染制御チーム：Infection Control Team (ICT) 活動に関して各職種の病床当たりの望ましい人員数を明記し、ICT活動体制の強化を目指すとともに、ラウンドの具体的な方法にも言及した。また抗微生物薬適正使用支援チーム：Antimicrobial Stewardship Team (AST) 設置をICTとは別に定義した。

基本となる院内感染対策については、PPEの適正使用、呼吸器衛生/咳エチケット、手指衛生について、より具体的に明記した。職業感染防止として、各種ウイルス抗体検査とワクチン接種について記載し、環境管理・環境整備については、最新のテクノロジーも踏まえ、とくにグラム陰性桿菌対策について示し、病院建築・改築の際のリスクアセスメントにも触れた。医療器材に関しては、単回使用の課題、内視鏡の取り扱いについて詳記し、医療器具関連感染、手術部位感染申請血集中治療部門での対応についてもボリュームアップを行った。また地域連携に関しては新しく運用が始まったJ-SIPHE: Japan Surveillance for Infection Prevention and Healthcare Epidemiology (感染対

策連携共通プラットフォーム)の利活用促進について言及した。

ASPおよびASTについては、別項目を新設し、その具体的な活動内容について詳記した。アウトブレイク対応については、拡大防止策、環境培養、周辺施設や保健所等との連携等について、より分かりやすく説明を加えた。

### D. 結論

第12回院内感染対策中央会議(平成27年2月2日開催)における論点、及び国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議による「薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン2016-2020」の主要な対策を参考に、「院内感染対策について」の更新のためのたたき台を作成した。次年度は、広くコメントを収集しさらにブラッシュアップする予定である。

### E. 研究発表

1. 論文発表：なし
2. 学会発表：なし

### F. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得：なし
2. 実用新案登録：なし
3. その他：なし

表) **通知の見直し：作業分担** 赤-New、紫-重点

項目	担当者	コメント
はじめに	村上啓雄（岐阜大）	新しく加わった部分を付記
1. 院内感染対策の体制 1-1. 感染制御の組織化 1-2. ICT 1-3. AST	掛屋 弘（大阪市大） 相首啓史（東医歯大）	AST追加
2. 基本となる院内感染対策 2-1. 標準および感染経路別予防策 2-2. 手指衛生 2-3. 職業感染防止 2-4. 環境整備および環境微生物検査 2-5. 医療機器の洗浄・消毒・滅菌 2-6. 手術および感染防止 2-7. NICUでの対応 2-8. 感染性廃棄物の処理 2-9. 医療機関間の連携 2-10. 地方自治体の役割	森美菜子（広島大） 寺坂陽子（長崎大）  +山本景一（熊本大） +相首啓史（東医歯大）  +徳田浩一（東北大） +徳田浩一（東北大）	環境管理アップデート  地域連携の在り方の進化
3. アウトブレイクの考え方と対応 3-1. アウトブレイクの定義 3-2. アウトブレイク時の対応 3-3. 介入基準の考え方および対応 3-4. 報告を受けた保健所等の対応	徳田浩一（東北大） 山本景一（熊本大）	アウトブレイクの考え方の変化 （インバウンド感染症↑への対応）